

地域を学ぶ, 地域と関わる ～ふるさとと自分自身を誇りに思う生徒の育成～

【完成版】

椿町中学校

I はじめに

II 本校の概要

- 1 地域の概要
- 2 椿町中学校の概要
- 3 生徒の概要

III 主題設定の理由

IV 研究の仮説と研究内容

- 1 研修主題
- 2 研究の仮説
- 3 研究の内容
 - (1) 地域を学ぶ
 - (2) 地域と関わる
 - (3) 小中一貫教育の充実
 - (4) 「キャリアパスポート」による目標設定と振り返りの取組

V 本年度の学校評価の結果からの考察

VI おわりに

地域を学ぶ, 地域と関わる ～ふるさとと自分自身を誇りに思う生徒の育成～

椿町中学校

I はじめに

令和4年6月に「阿南市立小・中学校再編基本計画（素案）」が公表され、令和5年2月に「阿南市立小・中学校再編基本計画」が策定されたことにより、今後、地域の学校がどうなっていくのか市民の関心度は高い。2060年に予想される阿南市の状況を見据え、教育の質を確保しつつ持続可能な体制に作り替えることは必要で重要なことである。しかし、学校が統合されてなくなり子供の姿が見えなくなる地域のことを考えると、人々にはいろいろな意見があり、その思いは複雑である。

令和4年度に実施された「阿南市立小・中学校の再編・統合にかかるアンケート調査」の調査報告書の11ページ、保護者調査の間14「お子さんの通学する学校（就学を予定する学校）における、今後の学校再編・統合についてどのようにするのが望ましいと考えますか。」の阿南市全体の中学校保護者の回答は次のようになっている。

- ・「早急に再編統合するべきである。」：7.7%
- ・「将来的（児童・生徒数が明らかに減ってから）に再編・統合するべきである」：47.5%，
- ・「再編・統合をするべきではない（現状のままでよい）」：39.0%，
- ・「その他」：1.0%
- ・「無回答」：4.9%

阿南市全体の中学校保護者の考えでは、賛成が約5割強、反対が約4割といったところである。

今後、学校がどうなっていくか不透明な状態で令和5年度を迎えるにあたり、本校では、ふるさと「椿町・椿泊町」に生徒の目をしっかりと向けさせ、地域のことを学び、地域の人々と関わることから、ふるさとに誇りをもたせるとともに、様々な経験を重ねることから「椿町・椿泊町」で育っている生徒自身にも自信と誇りをもたせることが必要だと考えた。

II 本校の概要

1 地域の概要

校区である「椿町・椿泊町」は阿南市の南東部に位置し、U字形の椿泊湾を取り囲むように、両側に「蒲生田地区」「椿泊地区」、そして湾の奥に流れ込む椿川の流域に「椿地区」があり、この3地区で校区を形成している。人口は、2014年3月31日時点では椿町と椿泊町で1,543人（598世帯）であったが、2023年10月31日現在で1,091人（527世帯）と9年余りの間にさらに減少しており、人口減少・世帯流出が進んでいる。

2 椿町中学校の概要

本校の生徒は、校区内の椿小学校・椿泊小学校の2校から入学してくる。両小学校とも、全校児童数は10人程度であり、本校も同じくここ数年10人程度の全校生徒数が続いている。チェーンスクール（分散型小中一貫教育）の取組は平成25年度から県の指定事業として始まり、地域の特徴ある教育活動として現在も推進し地域の理解も深まっている。

(1) 学校教育目標について

校訓「強く正しく和やかに」の精神を基調に、知・徳・体の調和のとれた心豊かな生徒を育てるとともに、ふるさとに誇りを持ち、人権を尊重し、自らの力でたくましく生き、広く社会に貢献できる人間を育成する。

この学校教育目標のもと、「目指す学校像」「目指す生徒像」「目指す教職員像」「指導の重点」を次のように設定している。

①目指す学校像（教育目標達成の基本方針）

- ・ふるさとを誇りに思う生徒の育成（地域とともにある学校）
- ・自分や相手の良さを認め合える仲間づくり（人権教育・道徳教育）
- ・確かな学力と創意工夫のある授業づくり（学力向上）
- ・安全・安心な学校づくり（防災・安全教育）

②目指す生徒像

- 『強く』 心身を鍛え、何事も最後までやり抜くたくましい生徒
- 『正しく』 自ら考え、正しく判断して行動できる生徒
- 『和やかに』 命を大切にし、思いやりや感謝の心を持つ生徒

③目指す教職員像

- ・愛情を持って生徒一人一人に接する教職員
- ・明るく前向きで、理想を持ち、健康で、豊かな発想をする教職員
- ・研究と修養に務め、自信と誇りを持って教育活動を展開する教職員

④指導の重点

- ・地域とともにある学校（総合的な学習の時間の充実）
- ・人権教育・道徳教育の充実
- ・確かな学力を育てる創意工夫ある授業づくり
- ・GIGAスクール構想の推進
- ・生命を守る安心安全な学校づくり
- ・生きる力を育む生徒指導
- ・特別支援教育の充実
- ・環境教育の推進

3 生徒の概要

生徒たちは全体的に素直でおとなしい。落ち着いた環境の中で学習や部活動に取り組んでおり、スポーツ分野・芸術分野ともに県レベルで活躍できる生徒も育ってきている。

一方、義務教育の9年間で少人数の固定化された集団で過ごしているためか、指示待ちで自主的に考えて動くことを苦手としている生徒が多い。中学校を卒業後、進学したり、就職したりしていずれ大きな集団に属することになるが、そこで自分の持つ力を発揮して社会に貢献し、成長し続ける人間に育ってほしいという保護者や地域、そして教職員の願いのもと、様々な教育活動に取り組んでいる。

Ⅲ 主題設定の理由

令和4年度末の学校評価では「阿南市（椿町・椿泊町）というまちがすきだ」の生徒の回答は、

- ・「そう思う」：72.7%
- ・「ほぼそう思う」：9.1%

で、計81.8%という数値になっているが、生徒達は地域のことを詳しく知っているかといえ、そうとは言いきれない。本校の生徒には、何よりも地域に対する愛情やふるさとに対する誇りを強くもたせることが必要だと考える。生徒がまだまだ知らない地域の歴史や環境について学び考えることが、このことにつながると考えた。

また、学校教育目標のまとめの部分「自らの力でたくましく生き、広く社会に貢献できる人間を育成する」ためには、ふるさとに誇りをもたせることとともに自分自身に自信と誇りをもたせて中

学校を卒業させることが必要である。そのために令和4年度から「キャリアパスポート」を用いた毎月の目標設定と振り返りを行っている。自分自身が立てた目標に対して、「できた」という実感を積み重ねていくことが自分自身に対する自信すなわち誇りにつながると考える。

本事業において、地域の素晴らしい歴史や環境を学び、地域に出向いて人々と関わることによって、人情味が厚く、美しく素晴らしいふるさと「樅町・樅泊町」と自分自身に誇りをもち、今後の変化の激しい世の中を生き抜き、将来ふるさとに貢献できる生徒の育成を目指すために本主題を設定した。

IV 研究の仮説と研究内容

- 1 研修主題：「地域を学ぶ，地域と関わる～ふるさとと自分自身を誇りに思う生徒の育成～」
- 2 研究仮説

- (1) 地域の歴史や環境を学び，地域の人や自然と関わることから，ふるさとに誇りをもたせることができるのではないかな。
- (2) 「キャリアパスポート」による目標設定と振り返りを継続する中で，生徒の自己肯定感と自己有用感を向上させることができるのではないかな。

3 研究の内容

(1) 地域を学ぶ

①蒲生田原子力発電所建設計画白紙撤回の歴史を学ぶ

～「映画『シロウオ～原発立地を断念させた町～』の鑑賞会と監督・プロデューサー・出演者との討論会」の実施から～

樅泊の森甚五兵衛が率いた「阿波水軍」の歴史は有名であり、町の道の狭さは当時の戦略上の名残として残っているものである。豊臣秀吉の時代から政治的にも貢献し、江戸時代にかけて阿波の海を守り、地元の人々を大事にした「阿波水軍」を生徒は小中一貫教育の「ふるさと学習」において繰り返し学習してきている。

令和4年12月の本校のキャリア教育講演会で、元自衛官の方より福島第1原発事故の放水作業に関わったときの話を聞いたことから原子力発電について調べていると、校区の蒲生田に1970年代に原子力発電所立地計画があり、それが当時の住民の反対運動によって白紙撤回された歴史があることを知った。この歴史については知らない人が意外と多い。そしてこの歴史がドキュメンタリー映画『シロウオ～原発立地を断念させた町～』（2013年）になっていることを知った。建設計画があった当時は、漁業と農業を基盤とする静かな町の大問題であったのだが、今となっては大々的に取り上げられることは少ない。ただ、この歴史は、2011年の東日本大震災の福島第1原発事故以降、今後近い将来に高い確率で起きるとされる南海トラフ地震での被害が



〈映画『シロウオ～原発立地を断念させた町～』〉

予想される「椿町・椿泊町」地域において、地域の大事な歴史として子供たちに語り継いでいく必要があると感じた。この映画には当時反対運動に関わった地元の方々が出演しており、今も元気でおられる方もいる。そこで、監督・プロデューサー、地元の出演者の方を招いての上映会と討論会を一般公開し、中学生とともにこの歴史を掘り起こすことで、生徒にふるさとの誇りをもたせることにつなげることができるのではないかと考えた。



〈『シロウオ』上映会後の様子〉

夏休み直前の7月18日(火)午後には上映会、19日(水)に討論会を実施した。参加人数は両日とも本校生徒・教職員を含めて約40名の参加となった。

討論会では、本県出身であるプロデューサー矢間秀次郎さんと監督かさこさん、地元の出演者3名(米山喜義さん、太居雅敏さん、岡本英美さん)の熱のあるお話のあと、パネルディスカッションの形を取り、その後、生徒・一般参加者を交えての話合いを行った。単に「うちの地域に原発ができなくてよかった」ということだけでなく、他の地域はどうなっているかなどのお話も交えていただき、ふるさと「椿町・椿泊町」の課題や今後どのように進むべきなのか考える機会になった。生徒にとっては難しい話だったが、よく考えて自分なりの意見が言えていた。地域の歴史や地域の今後を考えるなかから、ゆくゆくは進学・就職等で地域外へ出て、いずれ帰ってきて地域の力になれる、そしてこれらのことを考えるなかから、政治についても関心の強い生徒になってもらいたい。



〈『シロウオ』討論会の様子〉

た」ということだけでなく、他の地域はどうなっているかなどのお話も交えていただき、ふるさと「椿町・椿泊町」の課題や今後どのように進むべきなのか考える機会になった。生徒にとっては難しい話だったが、よく考えて自分なりの意見が言えていた。地域の歴史や地域の今後を考えるなかから、ゆくゆくは進学・就職等で地域外へ出て、いずれ帰ってきて地域の力になれる、そしてこれらのことを考えるなかから、政治についても関心の強い生徒になってもらいたい。

【生徒の感想】

○私は『シロウオ～原発立地を断念させた町～』を見て、自分が思っていたよりもすごく大規模な出来事だったことを知りました。私のおばあちゃんも当時反対していて、「原発が目の前に建つ予定だったけど、建たなくてよかったやろ?」と言われたことがありました。そのとき私は「原発?何それ?意味分かん」としか思っていなかったけれど、『シロウオ』を見て、たくさんの方が協力をして、先祖が残してくれた「きれいな自然」を守るために、そして「私たちのために」頑張ってくれたことを知りました。原発のおかげで助かっている地域もあるけれど、原発のせいで困っている人がたくさんいることを知りました。そして「放射能」で環境を壊している、人間の都合で作ったものが自然を壊していることを知りました。「今」そして「これから先の未来」を守るために私たちから努力していきたいです。

○1日目の映画鑑賞会では、原発をどう思うかという思いで町の人が立地を断念させたのかが分かりました。もし蒲生田に原発があったら、日々の生活は変わっていたと思います。自分の住んでいる町を誇りに思えなかったと思います。椿町で生まれ育つこともなかったかもしれないと思うと、私は原発立地を断念させてくださった町の人に感謝の気持ちがあふれました。2日目は討論会で、故郷について深く考えることができました。人口が減って椿町の良さがなくなることは「もったいない」と思います。第1次産業が主な産業の町だけど、「漁業ではずっと黒字」だと自信をもって太居さんがおっしゃっていたのを聞いて、第3次産業の仕事しか興味を持っていなかったのは「視野が狭かったな」と思いました。田舎には田舎の良さがある、ICTなどの仕事なら田舎に移住してきてもいいと思います。移住者にとって都会よりも田舎にメリットを感じてもらえるようにするとよいのではないかと考えました。守ってもらった町を時代を越えて受け継いでいきたいと思っています。

○もし仮に原発ができていれば、道は広くなり、同級生も増え、今よりも賑やかになっていた

かもしれません。それでも、僕は今の原子力による汚染に毎日ビクビクしながら生活する必要のない椿町の方がよいです。椿泊の魚は美味しいし、かもだ温泉は気持ちがいいし、自然豊かで水も空気もきれいな今が、もしかしたらなかったかもしれないと考えると本当に原発立地に反対して下さった地域の皆さんには感謝しかありません。大人になったときは「ふるさと」のために何かできることをしたいです。今の椿町を残していくために、今の椿町をよりよくするために頑張りたいです。

②地域の歴史と環境，エネルギーを考える

～「椿町中 THE SOLAR BUNKASAI～つばちゅう文化の日・佐藤タイジライブ～」の実施から～

「地域を学ぶ」取組の第2弾として、「椿町中 THE SOLAR BUNKASAI～つばちゅう文化の日・佐藤タイジライブ～」を企画した。佐藤タイジさんは徳島市出身のロックスターである。バンド「シアターブルック」のギター・ヴォーカルを担当する傍ら、ソロ活動を行ったり、プロジェクトとして方向性のはっきりしたバンドを結成し活動したりと、数々の実績がある。特に東日本大震災以降は、原子力発電や火力発電などの電力を用いず、環境に優しい太陽光発電の電力のみを用いた野外フェス『中津川 THE SOLAR BUDOKAN』を10年以上にわたって主催するなど、エネルギーの在り方にこだわった活動を展開している（2023年度「環境省 第10回グッドライフアワード 環境大臣賞 NPO・任意団体部門」受賞）。

原子力発電所立地計画を断念させた歴史のある町で佐藤タイジさんのライブを行うことは意義深いことであると考え、本校の文化祭「つばちゅう文化の日」の午後にライブ開催を依頼したところ、「協力したい」との返事をいただいた。Zoomを用いての打合せ時に、地元阿南市の株式会社GFの協力をいただいて、「THE SOLAR BUDOKAN」と同様に太陽光発電を用いた取組にすれば、注目も集めることができるだろうとご提案いただき、株式会社GFと交渉、協賛の形で太陽光パネルも当日設置することになった。

10月28日(土)は、午前の「つばちゅう文化の日」から午後の「佐藤タイジライブ」まで、音響システムを太陽光発電で作動させ、本校の文化祭を「椿町中 THE SOLAR BUNKASAI～つばちゅう文化の日・佐藤タイジライブ～」として実施することにした。広く一般公開することとし、原発立地計画撤回の歴史から環境のこと、そしてエネルギー問題までを考えた取組として、100人を本校体育館に集めることを目標にチラシの作成と配布、学校ホームページやSNS、地元ケーブルTVなどを活用した広報活動にも力を入れた。

当日は午前から保護者だけでなく、地域の方々、遠くは東京からも興味をもって参加いただいた方もおり、時間とともに徐々に参加人数は増え、最終的には全校生徒11人の学校の文化祭に90人余りの方々に集まっていただくことができた。特に「佐藤タイジライブ」については、原発立地を住民運動で白紙撤回させた歴史に触れ、そのおかげ



〈「椿町中 THE SOLAR BUNKASAI」チラシ〉



〈「つばちゅう文化の日」の様子(1)〉



〈「つばちゅう文化の日」の様子(2)〉

で今のこの地域の自然豊かな環境があり、この地域だからこそ、環境を考慮したエネルギーを活用していくことがこれから生まれてくる世代を守ることになると話していただいた。

おそらく、本校の生徒たちにとっては初めてのロックスターのライブであり、地域の多くの方にとっても同様の方も多かったと思われる。ノリの面ではどう反応してよいか分からない雰囲気があったが、本物のアーティストのライブとそのメッセージは、中学生の心に残り続け、いつか地域のことを思うときにこの取組を思い出すことになればと願う。

【生徒の感想】

○思ったより多くの機材を使っていて迫力がありました。ライブを見ることが初めてだったので「ライブはこんなに音が大きいものなのか」と思いました。トークで原子力発電などの発電のことについて話していたので、また発電方法について考えさせられました。再生可能エネルギーをもっと普及させて環境によい社会になればいいと思いました。

○私は初めて佐藤タイジさんのライブを聞いて、思っていたよりギターや音の迫力があってびっくりしました。機材もいろいろ見させてもらってひとつひとつが細かくてすごいと思いました。ギターを弾くのは私も好きなので、私ももっと上手になりたいと思いました。ライブが終わったあとにピックをもらったのがうれしかったです。音響は全部ソーラーパネルで集めた電力だったのですごいと思いました。

○僕は初めてライブを聴いて、音が大きく、すごく迫力を感じました。佐藤タイジさんのライブでは、ギターの音がとてもきれいで、自分もギターを弾きたいなど思いました。歌の合間に佐藤タイジさんの言っていたことはとても大切なことで心に残っています。そして聴いても楽しかった。来年も楽しみにしたいです。

【一般参加者の感想】

○28日の佐藤タイジさんのメッセージがずっと心に焼きついてます。生徒さんにはどんな反響があったことでしょうか！！私は手伝いの人に仕事を任せて見せて頂きました。タイジさんが生徒さんに対しての分かりやすい気遣いのメッセージ、感動的でしたね。本物を生徒さんや、また参加された大人の方に出逢わせられた先生の情熱と感性に頭が下がります。生徒さんにとってもまた私達、あの時間を共有した人達にとってはかけがえのない素晴らしい1日となりました。ありがとうございました。

③地域の今後を考える

～「株式会社G F 代表取締役藤崎耕治氏講演会～持続可能かつ調和の街『阿南圏域』～」の実施から～

2月9日(金)午後、10月末の「椿町中 THE SOLAR BUNKASAI」の際に音響システムを作動させるために太陽光発電ソーラーパネルを協賛の形で無償提供していただいた株式会社G F 代表取締役の藤崎耕治さんに本校にお越しいただき、1時間講演をしていただいた。演題は「持続可能かつ調和の街『阿南圏域』」で、本年度の「特色ある学校づくり推進事業」の仕上げに位置付く講演会となった。

この講演会は、「椿町中 THE SOLAR BUNKASAI」の際に株式会社G F の担当者と交渉・相談



〈「佐藤タイジライブ」の様子〉



〈「佐藤タイジライブ」休憩中の様子〉



〈「佐藤タイジライブ」後の集合写真〉

をする中で、藤崎耕治さんに企業としての再生可能エネルギーを核とした今後の地域開発についての話を伺ったことからお願いをした。その話が「阿南市もさらに人口減少が進み、それに伴って寂しくなってしまうのでは」という一般的なイメージとは異なる考えで、生徒や地域の方にぜひ聞かせたい内容であった。

地域の方にも案内を出していたところ、数名の方が聞きに来てくださった。

もともと阿南市以南の「阿南圏域」は地域資源が豊かで経済的にも活力のある地域である。将来は、今あるものと再生可能エネルギーを活用して、「阿南圏域」の発電方法を改良していく計画がある。そのことにより、産業や教育などの仕組みを変えていき、地域の力を活性化させることにつなげる。そのことで、人口減少を食い止め、持続可能な状態にできるのではないかという提案であった。

中学生にとっては難しい話であったが、阿南市学校再編計画が進むにつれ、近い将来地域から学校がなくなるのでは・・・と、寂しくなりそうな私たちの思考に明るい展望を持たせていただける話であった。

【生徒の感想】

○私は「持続可能かつ調和の街『阿南圏域』」の話を聞いて、少し難しかったけど、持続可能のためにいろいろなことを考えていると知って驚きました。考えるだけでなく、実際にしていることも知って、すごいと思いました。太陽光発電では100MWの発電所を完成させたと知りました。風力発電事業を通して脱炭素化を推進し、持続可能な社会の実現を目指していることを知ってすごいと思いました。阿南市は自然豊かな街と聞いてうれしかったです。私はこれから持続可能な社会をつくるために小さなことから協力したいです。例えば、給食などを残さずに食べたり、買い物のときはエコバッグを使ったりしたいです。未来の地球が平和になったらいいなと思います。

○今までの阿南市の人口の動向を見ると、少しずつ人は減っていて高齢者の数が増えていっていたので、僕も「このままゆるやかに椿町ごと消えていっちゃうのかな」と寂しいことを思っていました。しかし、今日、藤崎社長のお話を聞いて、「阿南市は世界で見てもかなり裕福な場所であること」「やりようによっては数十年でかなり発展することができる」という話を聞いて、阿南市も椿町も頑張れば後世にも残していける希望が湧いたのでよかったです。僕は将来どこへ行くのかはまだ分かりませんが、生まれ育った町が好きなのも誇りに思うのも変わらないので、この素晴らしい自然と文化を守っていけるように頑張ろうと思いました。

(2) 地域と関わる

①かもだフリマルシェ（椿町中SHOP Revenge!!）への出店

地域の方々に学校行事の際、学校へ来ていただいて生徒を見ていただくことは重要なことであるが、来てくださる方は限定的であり、地域交流の範囲は限られている。「かもだフリマルシェ」という多くの人の集まる地域の行事に出向き、生徒は自分たちでつくった商品の説明・販売をし、地域の方々には中学生の様子を見ていただいて、交流をすることで、ふるさと「椿町・椿泊町」の人を知り、人との関わりを広げることを目的とする。「総合的な学習の時間」を活用し、地域の方々に喜んでいただくために、生徒主体で思考し考えをまとめ、準備をしイベントを実行することで、企画力・実行力、計画的に進める力、みんなで楽しんで物事を進め



〈講演会の様子(1)〉



〈講演会の様子(2)〉

ていく力、地域との連携力を身に付けさせたい。

このような目的で、今年度初の試みとして「かもだフリマルシェ」出店の取組を行った。この企画は昨年度末の「第3回学校運営協議会（コミュニティ・スクール）」の中で出てきたアイデアを実現しようとしたものである。本年度は、新型コロナウイルス感染症の法的位置付けが5類に移行することが昨年度末から分かっていたこともあり、小中一貫教育の取組も含め交流活動を復活させ、地域の方々を巻き込んだ活動を年間計画作成時から考えた。ただし、少人数の学校ながら行事を多く計画している関係上、他行事の準備と並行して進めていく必要性は計画作成時から感じていたので、5月からのスタートと早めに動き出すことにした。

取組は次のような予定で進めていった。

ア 「総合的な学習の時間」の計画に従って、夏休みまでに販売商品を決定する。

イ 夏休み中に商品製作のための材料を準備する。

ウ 夏休み以降、商品を製作する。

エ 他行事や他の学習内容と同時進行しながら、計画的に進める。

オ 予算は阿南市「ふるさと体験等創出事業」に申請する。

カ マルシェの雰囲気を知り、出店への意欲を高めていくために、次のマルシェに参加する。

- ・6月4日(日)「第7回かもだフリマルシェ」自主見学。
- ・9月3日(日)「第8回かもだフリマルシェ」全員見学。

準備段階で、まず最初にぶつかった壁は、商品を「食品」にするか「雑貨」にするかである。生徒の中には食品販売の希望が強いものがいたが、保健所への衛生管理上の手続きも必要なことから、本年度は「雑貨」販売で統一することにした。商品決定・材料準備・商品製作・販売準備と生徒たちは前向きに活動することができた。

あとは当日を迎えるのみとなった実施前日12月2日(土)の深夜にフィリピン沖地震が発生し、津波注意報が実施日の3日(日)の午前7時においても継続して発表されていたため、生徒の安全を最重視する観点から「第9回かもだフリマルシェ」への出店は取りやめとした。ただ、本年度のテーマ「地域を学ぶ、地域と関わる～ふるさとと自分自身を誇りに思う生徒の育成～」の実現のために、約半年かけて考え準備してきたものを無駄にはできない。

そこで、冬休みに入ったすぐの12月25日(月)、学校近くで地域活動の拠点として運営している「キッチンマルシェ椿(ママどる)」の店舗内スペースをお借りし「椿町中SHOP Revenge!!」として出店させていただくことになった。情報を学校通信に掲載、本校ホームページにアップするだけでなく、校



椿町中 SHOP Revenge!!

椿町中学校は、12月3日(日)「第9回かもだフリマルシェ」に出店予定でしたが、前日未明からの「津波注意報」継続のため、出店を断念せざるをえませんでした。しかし、今年のテーマ「地域を学ぶ、地域と関わる～ふるさとを誇りに思う生徒の育成～」の実現のために、1～3年生全員で5月から半年以上かけて準備してきたものを無駄にはできません。そこで、「キッチンマルシェ椿(ママどる)」様のご協力のもと、「椿町中SHOP Revenge!!」として、出店することになりました。地域のみならず、中学生が作ったものを見に来ていただき、いろいろと中学生に話しかけて、よろしければ商品を購入ください!! たくさんの方のご来場をお待ちしております。

販売物品

| | | | |
|--|--|---|--|
| キーホルダー 400円、300円、100円 ヘアピン 2本100円 「花」夜更「海」のメッセージです。 | さんまいも 大小個ずつ100円 2年生が秋の時間を育てました。 | シーグラスアート 編組はそれぞれです。 かもだの海でつったシーグラスで作りました。 | ハーバリウム 値段はそれぞれです。 椿の葉をガラスに詰め込みました。 |
| 松ぼっくりの置物 2個100円 クリスマス飾ってほしい置物です。 | 梅干し 100円 梅シロップ 2個100円 椿町中学校で漬けた梅干しを使っています。 | | |

椿町中SHOP Revenge!!
日時：令和5年12月25日(月)
10：00～14：00
場所：キッチンマルシェ椿
(ママどる) 阿南市椿町庄田5
連絡先：【ママどる】0884-49-4779
【椿町中学校】0884-33-1008

〈「椿町中SHOP Revenge!!」のチラシ〉



〈マルシェ出店へ向けての話し合い(1)〉



〈マルシェ出店へ向けての話し合い(2)〉



〈マルシェ出店へ向けて材料選び〉

区内両小学校にチラシ配布を依頼し、地域各所にチラシを置いていただき、地元ケーブルTVに広報していただいたり、地域内の徳島新聞に折り込みチラシを入れていただいたりして告知活動を行った。

午前10:00から1, 2年生が、午後は14:00まで3年生が当番を担当し、当日は開店当初から多くの地域の方々にお越しいただき、生徒は多くの地域の方々と交流することができた。

【生徒の感想】

○「かもだフリマルシェ」への出店準備に取り組んでどうでしたか。

- ・思っていたよりも考えることがたくさんありました。班の中でキーホルダーのデザインや分担をもっと決めておけばよかったと思いました。
- ・みんなで協力して作ったものは1つ1つが世界に1つしかない宝物に感じられました。

○「椿町中SHOP Revenge!!」に出店してどうでしたか。

- ・思った以上に僕が作ったものが早く売れて驚きとよろこびがありました。人との接客は意外とむずかしく、あまり声が張れていなかったと思います。
- ・商品販売をして、たくさん人が来てくれて驚きました。お客さんが店に来たときにあいさつを大きな声でしたほうがいいと感じました。
- ・たくさん人が来てくれて、商品に興味を持ってくれたり、買ってくれたりしてくださってとてもうれしかったです。楽しかったし、やりがいがありました。
- ・商品販売時、笑顔で接客することを意識していて、最初はとても緊張したけど、最後の方は笑顔で接客できてよかったです。

○「かもだフリマルシェ（椿町中SHOP Revenge!!）」出店への取組を通して何が身に付いたと思いますか。

- ・私が今まで協力していると思っていたことは、誰かが代表となって引っ張っているだけで皆が同じ立場で動けなかったと知ることができました。
- ・僕の生活は、知っている人・知らない人本当にいろいろな人に支えられていると改めて気付きました。
- ・人と関わる力が身に付いたと思います。いろいろな人たちと関わって、商品の説明をしました。興味を持ってもらうために頑張ったと思います。

②学校運営協議会（コミュニティ・スクール）との協働（R4とR5の取組から）

令和4年度より椿小学校・椿泊小学校・椿町中学校で合同の椿町中学校区学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を立ち上げた。3校で10年以上継続実施しているチェーンスクール（分散型小中一貫教育）の取組をさらに地域に根付かせ、「地域に開かれた学校」から「地域とともにある学校」への進化をめざすものである。本校区の場合は、過疎・少子化、学校の小規模化、地理的に学校統廃合が困難ゆえに校区外への通学困難などの地域のデメリットを最小限に抑え、地域の特性を生かしながら小規模校のメリットを最大限に生かすために重要な組



〈商品「ハーバリウム」〉



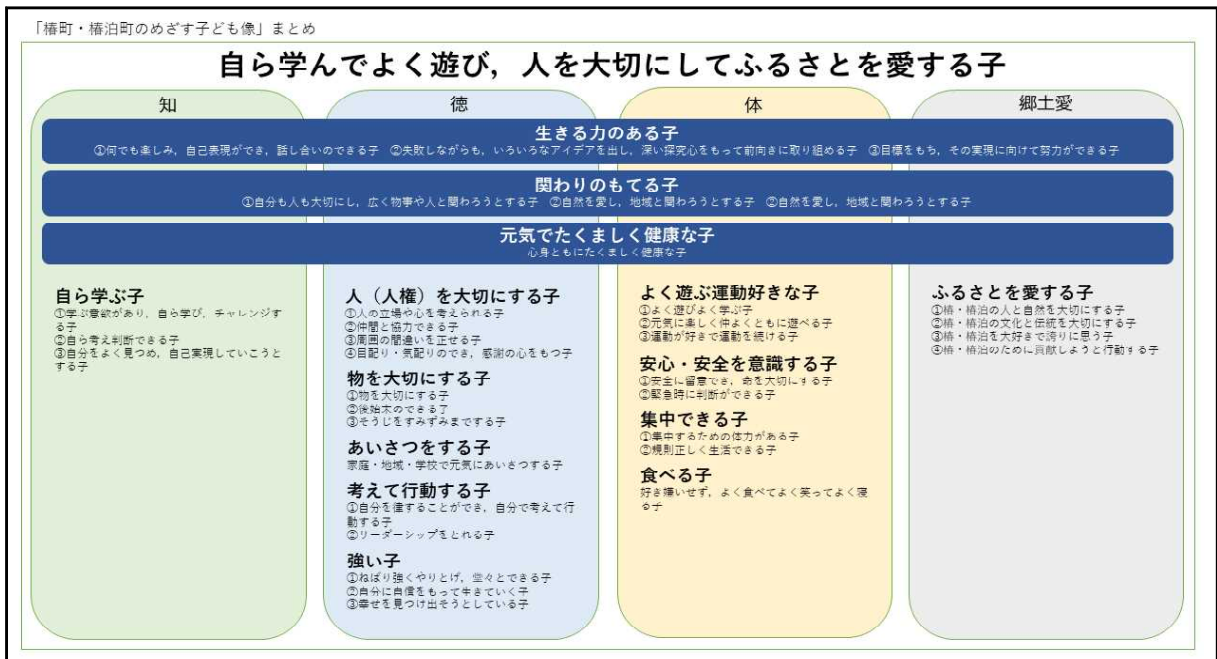
〈商品「キーホルダー」〉



〈「椿町中SHOP Revenge!!」接客の様子〉



〈「椿町中SHOP Revenge!!」接客の様子〉



〈椿町・椿泊町のめざす子ども像〉

織となっている。令和4年度は「地域でどのような子供たちを育てるのか」「何を実現していくのか」など、目標やビジョンについて地域一帯となって子供たちを育てていくために意見交換を行い、図の「椿町・椿泊町のめざす子ども像」を作成した。この子ども像の実現のために令和5年度に具体的にどのようなことを行っていくのか話し合い、次のような案でまとまった。

- ・全町運動会の復活（種目の中で地域の方と交流できるものを入れる）
 - ・合同清掃活動 ⇒ 地域食材を使った料理教室 ⇒ キャンプ
 - ・本格的な映画作成
 - ・郷土の料理教室
 - ・保護者との球技大会
 - ・3校での共同学習
 - ・地域行事に子どもが参加
 - ・子どもの行事に地域が参加
- ※キッチンカー、ドローン、マルシェ等での物品販売

この案を受けて、全町運動会を復活させてほしいと運動会の主催である椿公民館に交渉をもちかけたり、「かもだフリマルシェ」への本校の出店の取組へとつながったりした。

先述の映画『シロウオ～原発立地を断念させた町～』の鑑賞会と討論会のパネラーのうち2名は本年度の学校運営協議会の委員さんであり、そのうちの1名（米山喜義さん）はふるさと学習「アサギマダラマーキング遠足」（後述）の講師もしていただいている。また別の委員さん（小川道洋さん）には護身術教室の講師もしていただいた。様々な場面で学校現場の中に入っていただいたり、校外の活動の場所を貸していただいたりするなど、学校と地域とのパイプ役として様々な場面でご協力いただいている。



学校運営協議会の様子

(3) 小中一貫教育の充実

椿小学校・椿泊小学校・椿町中学校の3校は、文部科学省「小中一貫教育校による多様な教育システムの調査研究事業」の委託を受けた小中一貫教育「徳島モデル」調査研究事業として、

平成25年度から平成26年度までの2年間、児童生徒、教職員の地域一帯化プログラムの作成・推進など「徳島モデル」の調査研究を行った。平成27年度からは小中一貫教育（徳島モデル）推進事業に移行し、取組を充実させてきた。10年以上にわたり地域を巻き込みながら様々な取組を行ってきている。

次に挙げる取組は、コロナ禍の制限が解けたことにより、本年度復活させた取組である。取組内容を生徒の感想とともに紹介する。

①ふるさと学習「アサギマダラマーキング遠足」

遠くまで旅をする蝶として有名なアサギマダラ。講師の米山さんと椿小学校の保護者の方々が事前にアサギマダラがその匂いで集まってくる「水前寺菜」のプランターを明神山に並べてくださり、小中一貫教育の取組としてアサギマダラマーキング遠足として実施、アサギマダラにたくさんマーキングをすることができた。マーキングは「MJ(明神山)、5.10(日付)、〇〇(マーキング者の名前)」と蝶の羽に油性マジックで記入することにより、次に捕獲した際何日間でどこまで移動したかななどのデータをとることにつながる。



〈アサギマダラマーキング遠足〉

【生徒の感想】

○今年は今まで行ったなかで、一番アサギマダラがいたので驚きました。今までは秋に行っていたので、春にいるのかなと思っていたけど、たくさん捕まえることができました。講師の米山さんの話で、アサギマダラについて詳しく知ることもできました。チョウが徳島から台湾まで飛んでいたことに驚きました。

②小中合同体カテスト

この取組は、コロナ禍の制限が緩くなってきたことから、復活させた行事のひとつである。

小学3年生以上の児童と中学生が本校に集まり、握力・立ち幅跳び・長座体前屈・反復横跳び・上体起こしなどの種目と一緒にを行い、交流を図りながら記録を残す取組である。



〈小中合同体カテスト〉

【生徒の感想】

○みんなが共通して思っていることは、「にぎやかで楽しかった」だと思います。やはり人数は多い方が楽しくできるので、時間があれば、遊びの交流を学校でしてみたいと思いました。小学校も中学校も少人数なのを生かして、もっと交流する数を増やしてほしいと思います。

○小中合同体カテストがすごく久しぶりだったので、私が小学生のときの中学生も「私たちをこんな風に見ていたのかな」と思いながら、体力テストをしていました。

③ふれあい防災オリエンテーリング

小学生と中学生のグループに保護者が入り、防災・安全に関する問題を解きながら椿町をめぐり、親子で地震・津波発生時の避難経路、避難場所の確認をすることにより、災害時の対応力を高め、防災意識の高揚を図るとともに、家族や児童・生徒間のコミュニケーション力の向上を図るために、小中一貫教育の取組として伝統的に行っている行事である。



〈ふれあい防災オリエンテーリング〉

【生徒の感想】

○防災オリエンテーリングでは、今の自分の知識の浅さと今ある椿の自然の豊かさを学ぶと同時に、防災に対しての意欲やこの自然を守っていきたいという考えを改めて学ぶことができ

ました。そんなに遠くない未来に、南海トラフ地震が起きたときに備えて日頃から防災の話を家族としようと思いました。

④椿・椿泊町合同運動会

コロナ禍の間は、保小中合同運動会として地域の子供だけで運動会を行っていたが、椿・椿泊町合同の全町運動会として4年ぶりに実施することができた。小中一貫教育で連携している地元の子供たちの元気な姿を地域の方々に見ていただき、地域を盛り上げていこうというねらいがある。



〈椿・椿泊町合同運動会〉

【生徒の感想】

- 今年の運動会は、久しぶりのコロナ明けから初の「椿・椿泊町合同運動会」でした。数年ぶりに昼過ぎまで実施できて楽しかったです。それに暑すぎと感じるくらい晴れて本当によかったです。来年からは「地域の人」という分類で出るようになりますが、また来年も出たいです。
- 中学校生活最後の年に4年ぶりに全町運動会が開催されてうれしかったです。特に楽しかったのはやっぱり応援合戦です。自分たちで考えたものを自分たちで楽しみながら行えたことがよかったです。
- 久しぶりの全町運動会だったので、町の人たちとも一緒に競技をして楽しかったです。今年は去年よりも競技数が増えていたし、小学生との合同種目も増えていて楽しかったです。この他にも、小中一貫教育の取組として、令和5年度は次の取組を実施した。

- ・小中一貫教育全体会（年3回・・・教職員の共通理解のため）
- ・帆船みらいへ体験乗船
- ・ツバッキーTV（年4回・・・ZOOMによる交流会）
- ・小中一貫オープンスクール

(4) 「キャリアパスポート」による目標設定と振り返りの取組

【キャリアパスポート(理想の自分になるために)】

理想の自分になるために目標を設定し、それを達成するためにどんな取組が必要と考えて実行しよう。生活の状況を月末に振り返り、翌月の目標設定につなげよう。

1月の目標 ()年 氏名()

●自分自身の目標

自分自身の目標を達成するために、具体的に何をやるのか考えよう。

| | |
|-------------------------------------|---------|
| 目標を達成するための取組内容(具体的に考える・ルーティン化できるもの) | 達成度(月末) |
| A B C D | A B C D |

達成度 A よくできた B まあまあできた C あまりできなかった D できなかった

●対人関係の目標

対人関係の目標を達成するために、具体的に何をやるのか考えよう。

| | |
|-------------------------------------|---------|
| 目標を達成するための取組内容(具体的に考える・ルーティン化できるもの) | 達成度(月末) |
| A B C D | A B C D |

達成度 A よくできた B まあまあできた C あまりできなかった D できなかった

●2つの目標に対して振り返りをし、翌月の目標設定につなげよう。

| | |
|----------|----------|
| 担任のメッセージ | 校長のメッセージ |
|----------|----------|

〈「キャリアパスポート」様式〉

校訓 強く 正しく 和やかに

椿町中通信 11月号①

令和5年11月7日(火) 第13号

スローガン 笑顔と元気の 椿町中学校

●キャリアパスポート「10月の振り返り」

| 自分自身の目標 | | | | |
|-----------|--------|--------|-------|-------|
| 取組内容の自己評価 | | | | |
| | A | B | C | D |
| 9月 | 30.0% | 40.0% | 20.0% | 10.0% |
| 10月 | 40.0% | 40.0% | 20.0% | 0.0% |
| | できた | できなかった | | |
| 9月 | 70.0% | | 30.0% | |
| 10月 | 80.0% | | 20.0% | |
| 対人関係の目標 | | | | |
| 取組内容の自己評価 | | | | |
| | A | B | C | D |
| 9月 | 70.0% | 30.0% | 0.0% | 0.0% |
| 10月 | 50.0% | 40.0% | 0.0% | 10.0% |
| | できた | できなかった | | |
| 9月 | 100.0% | | 0.0% | |
| 10月 | 90.0% | | 10.0% | |

10月の振り返りは、「自分自身の目標」で「できた」に10%のアップが見られ、「対人関係の目標」については、90%を維持できています。多くの生徒が文化祭に関する目標を掲げていたので、その達成感がこの数値に出てきたのかなと感じました。ただし、細かく見てみると、「対人関係の目標」に「A」を付けた生徒が20%減っており、「D」評価を付けた生徒がいます。自分自身で決めた目標と取組内容にしっかり取り組み、「できたっ!」という振り返りができることで、自己肯定感や自己有用感を高め、社会に貢献できる人間になるための「自信」を付けていくことが、この取組の目的です。「自信・自信」とよく言いますが、これは急に1回結果が出たことで自信が付くこともありません。自分で決めたことをとことんやってみることが本当に大切です。

●キャリアパスポート「11月の目標」

生徒たちの11月の目標設定です。

| 自分自身の目標について | | 対人関係の目標について | |
|-----------------------------------|-----------------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 目標 | 取組内容 | 目標 | 取組内容 |
| A テスト勉強と作品づくりを進める。 | 間があるときにできるだけ進める。 | 家族とたくさん話す。 | 気分いいときに話す。スマホを触る時間を減らす。 |
| B 基礎学力テストに向けて勉強を頑張る。 | 22~23時の間は自主学習ができるように帰ってすぐ物事に取組める。 | あいさつをしっかりする。 | 人と会った際は目を見てハキハキとあいさつをする。 |
| C 歯磨きは別に平日は1時間30分以上、休日は2時間以上勉強する。 | 平日は帰ってから1時間以内、休日は午前10時までには勉強を始める。 | 健康的に過ごして人に迷惑をかけるないようにする。 | 夜0時30分までに寝て朝6時45分まで起きる。 |
| D テストに向けて勉強する。 | 毎日1時間する。 | 相手のことを考えながら話す。 | 言葉遣いに気を付ける。 |
| E 早起きをする。 | 家に帰るとすぐに歯磨きなどを行って、10時までに寝る。 | 怒れている人にも人に対する態度を変えない。 | 疲れたら1回一人になり気持ちを整える。 |
| F 卓球の試合でいいプレーをする。 | 練習をなるべく2年生相手とする。 | あいさつをたくさんする。 | 地域の人に自分からあいさつをする。 |
| G 宿題を毎日提出する。 | 家に帰ってすぐにする。 | 母のお手伝いをする。 | 言われる前に気が付いたらすぐする。 |
| H 規則正しい生活を心がける。 | 夜は22時までに寝て7時までは起きる。 | 家の手伝いをする。 | 主に部屋のそうじ、整理整頓をする。 |
| I 卓球の大会で勝てるようにする。 | 練習で苦手なところを直す。 | 毎日7人にあいさつをする。 | 積極的にあいさつをする。 |

〈椿町中通信11月号①〉

本校では、学校教育目標の後半の部分「自らの力でたくましく生き、広く社会に貢献できる人間を育成する」を実現するためには、生徒の自己肯定感と自己有用感を向上させることが重要であると捉え、昨年度よりキャリアパスポートを生徒一人一人の毎月の目標設定と振り返りに用いている。

本校で作成して用いているキャリアパスポートは前項左の様式である。「自分自身の目標」と「対人関係の目標」をその目標を達成するための取組内容とともに決める。「自分自身の目標」が自己肯定感（自分は「できる」という気持ち）、「対人関係の目標」が自己有用感（自分は「誰かの役に立っている」という気持ち）につながっていく仕組みである。目標設定の際、例えば「対人関係の目標」が「家の手伝いをする」なら、それを達成するための取組内容を「食器洗いを週3回する」というように具体的に数値目標とともに考えさせる。そうすることにより、月末の自己評価がしやすくなり、翌月の目標設定につながっていく。振り返りに対して担任と校長がコメントし、生徒の生活の励みになるようにしている。生徒の立てた目標やそれを実現するための具体的な方策、振り返り結果を毎月の「椿町中通信」に公開し、保護者のみならず、学校運営協議会委員や地域の施設・店舗に配布し、地域の方々に見ていただいている。

令和4年度の各月の振り返りの平均数値と令和5年度11月までの平均数値は次の表の通りである。

| キャリアパスポート（理想の自分になるために） 令和4年度 自己評価結果 | | | | | | | | | |
|--|--------------|-----------|--------|-------|-----------|------|--------|-------|--------|
| 1～3学年全体 | | | | | | | | | |
| 自分自身の目標 | | | | | 対人関係の目標 | | | | |
| 取組内容の自己評価 | | | | | 取組内容の自己評価 | | | | |
| 年間 | 自己評価記号 | A | B | C | D | A | B | C | D |
| | | 記号別割合 (%) | 33.3% | 36.8% | 24.8% | 5.1% | 47.9% | 37.6% | 13.7% |
| | 肯定・否定 | できた | できなかった | できた | できなかった | できた | できなかった | できた | できなかった |
| | 肯定・否定別割合 (%) | 70.1% | 29.9% | 85.5% | 14.5% | | | | |

〈「キャリアパスポート」令和4年度の自己評価結果〉

| キャリアパスポート（理想の自分になるために） 令和5年度（11月まで） 自己評価結果 | | | | | | | | | |
|---|--------------|-----------|--------|-------|-----------|------|--------|-------|--------|
| 1～3学年全体 | | | | | | | | | |
| 自分自身の目標 | | | | | 対人関係の目標 | | | | |
| 取組内容の自己評価 | | | | | 取組内容の自己評価 | | | | |
| 年間 | 自己評価記号 | A | B | C | D | A | B | C | D |
| | | 記号別割合 (%) | 35.9% | 35.9% | 25.5% | 2.6% | 51.3% | 39.7% | 7.7% |
| | 肯定・否定 | できた | できなかった | できた | できなかった | できた | できなかった | できた | できなかった |
| | 肯定・否定別割合 (%) | 71.8% | 28.2% | 91.0% | 9.0% | | | | |

〈「キャリアパスポート」令和5年11月までの自己評価結果〉

令和4年度と令和5年度11月までの結果を比較してみると、自分自身の目標への取組に対する肯定的評価はほぼ同じ約70%であるが、対人関係の目標については85.5%から91.0%へ約5%の伸びが見られる。本校の生徒の特徴として言えることは、自分のための頑張り具合には弱さを感じるが、人のために努力することは伸びてきている。自己肯定感の向上にはまだまだ課題があり、自己有用感については少しではあるが育ってきていると言える。今後の取組で生徒の自己肯定感をもっと向上させるための具体的な方策が必要である。

V 本年度の学校評価の結果からの考察

| 「特色ある学校づくり推進事業」アンケート 事前事後比較 | | | | |
|---|----|-------|-------------|-------------|
| 質問項目 | 対象 | 令和4年度 | 令和5年度 | |
| | | 肯定的回答 | 事前 肯定的回答 | 事後 肯定的回答 |
| 1 「笑顔と元気の椿町中学校」になっている。 | 生徒 | 81.8% | 100.0% | 100.0% |
| 2 授業で学んだことを生活の中で活用しようとしている。 | 生徒 | 72.7% | 100.0% | 80.0% |
| 3 表現力がついている。 | 生徒 | 81.8% | 90.9% | 80.0% |
| 4 キャリアパスポートの目標設定と振り返りなどの取組により、自信がついてきている。 | 生徒 | 72.7% | 90.9% | 70.0% |
| 5 自分にはいいところがある。 | 生徒 | 72.7% | 100.0% | 100.0% |
| 6 自分は誰かの役に立っている。 | 生徒 | 72.7% | 81.8% | 90.0% |
| 7 学級に自分の役割があり、意欲的に活動している。 | 生徒 | 81.8% | 100.0% | 90.0% |
| 8 生徒会や専門委員会に自分の役割があり、意欲的に活動している。 | 生徒 | 81.8% | 100.0% | 100.0% |
| 9 学校行事は楽しく、充実したものとなっている。 | 生徒 | 81.8% | 100.0% | 100.0% |
| 10 小中一貫教育の取組は楽しく、充実したものとなっている。 | 生徒 | 81.8% | 100.0% | 100.0% |
| 11 学校の教育方針や教育活動のねらいを理解している。 | 生徒 | 81.8% | 90.9% | 100.0% |
| 12 阿南市(椿町・椿泊町)というまちが好きだ。 | 生徒 | 81.8% | 90.9% | 90.0% |

〈「特色ある学校づくり推進事業」アンケート 事前事後比較〉

令和5年度「特色ある学校づくり推進事業」を受け、その効果を測る目安として、学校評価アンケートの生徒の回答を用いることとした。昨年度の数値、そして本年度の本事業に関する取組の前後の数値を比較することで、本校で例年行っている通常取組と合わせてその効果が測れるのではないかと考えた。次の表の質問項目は、本事業の効果を測るのに適当と思われるものを12項目抜き出している。(この数値「%」には欠席のため回答できなかった生徒は含めていない。) 事業の研究仮説(1)(2)に直接当てはまる項目と間接的に当てはまると言える項目も考察した。

1 研究仮説(1)「地域の歴史や環境を学び、地域の人や自然と関わることから、ふるさとに誇りをもたせることができるのではないか。」について

本年度の取組の中で、研究仮説(1)に当てはまるものは、「映画『シロウオ～原発立地を反対させた町～』の鑑賞会と監督・プロデューサー・出演者との討論会」「椿町中 THE SOLAR BUNKA SAI～つばちゅう文化の日・佐藤タイジライブ～」「かもだフリマルシェ(椿町中SHOP Revenge!!)への出店」「小中一貫教育」の各取組である。

この仮説に直接当てはまる項目が、「1・9・10・12」であると考え。それぞれの項目の生徒の肯定的回答の推移は次のようになっている。

| 質問項目 | | R4 肯定的回答 R5.2月 | R5 事業実施前 肯定的回答 R5.5月 | R5 事業実施後 肯定的回答 R5.12月 |
|------|-----------------------------|----------------------|-------------------------------|--------------------------------|
| 1 | 「笑顔と元気の椿町中学校」になっている。 | 81.8% | 100.0% | 100.0% |
| 9 | 学校行事は楽しく、充実したものとなっている。 | 81.8% | 100.0% | 100.0% |
| 10 | 小中一貫教育の取組は楽しく、充実したものになっている。 | 81.8% | 100.0% | 100.0% |
| 12 | 阿南市(椿町・椿泊町)というまちが好きだ。 | 81.8% | 90.9% | 90.0% |

どの項目においても令和4年度との比較で見ると向上が見られる。生徒の回答では、本年度の行事は楽しく充実したものとなっており、生徒は「学校が好き」「椿町・椿泊町が好き」となっていると見えるのではないだろうか。質問項目の問い方の違いはあれ、「ふるさとへの誇り」という点で考えれば、本年度の取組で地域の歴史や環境を学び、地域へ出向いてふるさとの人々と関わった経験は、「椿町・椿泊町」への誇りに十分つながる結果ではないかと考える。

質問項目「2」については、各教科等で学んだことを特に総合的な学習の時間を活用して準備した「かもだフリマルシェ(椿町中SHOP Revenge!!)への出店」の取組へ落とし込んでいるかという教師の考えではあるが、次のような結果になった。

| 質問項目 | | R4 肯定的回答 R5.2月 | R5 事業実施前 肯定的回答 R5.5月 | R5 事業実施後 肯定的回答 R5.12月 |
|------|---------------------------|----------------------|-------------------------------|--------------------------------|
| 2 | 授業で学んだことを生活の中で活用しようとしている。 | 72.7% | 100.0% | 80.0% |

この項目についても、昨年度の数値を上回っている。この項目については教師の思いと生徒の思いに差異があることは想像できるが、今後さらに重要な項目になってくるであろう。

質問項目「3」については、今後の課題だと考えている。

| 質問項目 | | R4 肯定的回答 R5.2月 | R5 事業実施前 肯定的回答 R5.5月 | R5 事業実施後 肯定的回答 R5.12月 |
|------|------------|----------------------|-------------------------------|--------------------------------|
| 3 | 表現力がついている。 | 81.8% | 90.0% | 80.0% |

私たち教職員は、生徒たちに表現力は確実についてきていると感じている。本年度の取組でいえば、「映画『シロウオ～原発立地を断念させた町～』の鑑賞会と監督・プロデューサー・出演者との討論会」の際には、一般参加者を含めた大勢の大人の前で、生徒自身が深く感じたことを自分の言葉で発表し、感想として書くことができた生徒がほとんどであった。「佐藤タイジライブ」についても同様である。行事の度に自分の言葉で感想等を話させていることで、生徒が考え

話す内容が徐々に深くなっていることが分かる。ただし、これは生徒の生活からすれば一部のことであり、本当は多方面にわたる細かな分析が必要である。各教科等の授業だけでなく、学校生活の様々な場面において、教職員は常に生徒の表現力の向上を意識しておく必要がある。

2 研究仮説(2)『『キャリアパスポート』による目標設定と振り返りを継続する中で、生徒の自己肯定感と自己有用感を向上させることができるのではないか。』について

研究仮説(2)の直接的な評価としての項目は「4」であり、この項目の生徒の肯定的な回答の推移は次のようになっている。

| 質問項目 | | R4 肯定的回答 R5.2月 | R5 事業実施前 肯定的回答 R5.5月 | R5 事業実施後 肯定的回答 R5.12月 |
|------|---|----------------------|-------------------------------|--------------------------------|
| 4 | キャリアパスポートの目標設定と振り返りなどの取組により、自信がついてきている。 | 72.7% | 90.9% | 70.0% |

この項目だけで見ると、事業実施後の数値としては昨年度の取組とほぼ変化はない。ただし、質問項目の問い方の違いはあるが、この取組のねらいとしている部分の質問項目である「5・6・7・8」については、次のような推移である。

| 質問項目 | | R4 肯定的回答 R5.2月 | R5 事業実施前 肯定的回答 R5.5月 | R5 事業実施後 肯定的回答 R5.12月 |
|------|--------------------------------|----------------------|-------------------------------|--------------------------------|
| 5 | 自分にはいいところがある。 | 72.7% | 100.0% | 100.0% |
| 6 | 自分は誰かの役に立っている。 | 72.7% | 81.8% | 90.0% |
| 7 | 学級に自分の役割があり、意欲的に活動している。 | 81.8% | 100.0% | 90.0% |
| 8 | 生徒会や専門委員会に自分の役割があり、意欲的に活動している。 | 81.8% | 100.0% | 100.0% |

どの項目も、昨年度の数値と比較すると向上していることが分かる。「キャリアパスポート」の目標設定と振り返りの取組は、「自分で決めた」目標と取組内容に対する自己評価の数値だが、上記「5・6・7・8」は、生活全般の広い範囲での生徒の自己評価と言える。自分にはいいところがあり、誰かの役に立てていると思える生徒が増えてきたことは取組の成果と言えるのではないだろうか。

質問項目「11」は、研究仮説(1)(2)を検証していく前提として大切である。学校として様々な取組を進めていく上で「何を目的として行うのか」の部分を教職員だけでなく生徒も共通理解しているという面で非常に重要なことだと考える。

| 質問項目 | | R4 肯定的回答 R5.2月 | R5 事業実施前 肯定的回答 R5.5月 | はR5 事業実施後 肯定的回答 R5.12月 |
|------|--------------------------|----------------------|-------------------------------|---------------------------------|
| 11 | 学校の教育方針や教育活動のねらいを理解している。 | 81.8% | 90.9% | 100.0% |

小規模校ゆえに共通理解を図りやすい利点があると思うが、アンケート結果による教育方針や教育活動のねらいの理解度は、昨年度末から徐々に向上している。全校集会や各学級での学活等を通じて、様々な場面で本年度のテーマ「地域を学ぶ、地域と関わる～ふるさとと自分自身を誇りに思う生徒の育成～」と学校教育目標の重要な部分「自らの力でたくましく生き、広く社会に貢献できる人間を育成する」を軸として活動を組み立てていることを話していたので、生徒も取組の目的の理解を徐々に深めていたのだろう。学校で行う様々な取組を効果的なものとしていくためには非常に大切なことである。

VI おわりに

令和4年9月30日に阿南市ホームページで公開された『阿南市立小・中学校再編基本計画(素

案)』に関するパブリックコメント（意見募集）」には、小中一貫教育、小規模校に関する意見には次のようなものがあった。

- ・「阿南市総合計画で地域の活性化があげられているが、地域に小中学校がなくなると、一気に地域は衰退すると思う。せめて小学校は残すべき。」
- ・「小規模特認校制度を活用して、小規模校の特性を生かした魅力を発信し、阿南市内に通う子どもたちが希望すれば通学できるシステムを行うと、小規模校の児童生徒の人数が増えるのではと思う。小規模校がある地域は、すでに特色ある取り組みをし町おこしをしているところ、これからやろうとしているところもあるはずなので、小規模特認校制度が十分活用できるはず。」
- ・「過小、小規模校での統合を早急に進めるべきだと思う。小学校で少ない人数→中学校で増えたとしても、小規模校に変わらない所は多い。その中で（少人数）新たな人間関係を築くことは、困難であることも多い。人数が少ない事は、関係が密でメリットも多いが、逃げ場がなく、選択できないデメリットが多い。」

「阿南市立小・中学校再編基本計画・実施計画」の流れの中で、「椿町・椿泊町」地域には小・中学校の今後を心配する声が多く聞かれる。「阿南市立小・中学校再編」に向けた取組は、阿南市ホームページに掲載されているロードマップによると、令和6年1～3月の間に「実施計画（案）」が公表され、再編の具体案が示される。実施計画は令和6年度中に策定され、令和7年度以降に再編・統合の流れになる。具体案が示されると、阿南市民の学校再編への関心はより高まりを見せるだろう。本校区の小・中学校の存続に対する意見もより大きくなって聞こえてくることが予想される。

本年度の本校の取組は、「椿町・椿泊町」地域には避けることのできない「阿南市立小・中学校再編」を視野に入れ、本年度に何を生徒に取り組ませるべきなのかを十分考えて行った。この状況だからこそ、「地域を学ぶ、地域と関わる～ふるさとと自分自身を誇りに思う生徒の育成～」を取組のテーマとし、コロナ禍の制限が緩くなったこともあって、地域の人々を多く集めることのできる行事を計画した。生徒と地域の人々との関わりを深め、地域の歴史や環境のことを学ぶだけでなく、地域とのかかわりの中からふるさと「椿町・椿泊町」に対する誇りを持てるような行事をほぼ計画通り実施することができた。また、自分自身に対する自信や誇りが育成されるような「キャリアパスポート」を軸としたシステムも取り入れ、継続している。今年度の取組が本校の生徒の心に残り、いずれ地域のために活躍できる人材に育つことを願っている。